

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立あけぼの学園高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○生徒一人ひとりが、あけぼの学園高校の生徒として「自信と誇り」を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい生徒像 ○授業に真剣に取り組み、部活動や資格取得にも積極的にチャレンジし成果をあげる体験を重ねて達成感、やりがい、自尊感情を高め、「自信と誇り」を持っている。 ○制服をきちんと着こなし、ピアス等の装飾品は身につけず、頭髪も含め高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。 ○登下校時に交通ルールやマナーを守り、相手の目を見て挨拶し規律ある行動や、地域に学び貢献に努める取組等により、地域から信頼を得ている。 ○多様性を尊重して他の生徒に寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。
	ありたい教職員像 ○目指す学校像の実現に向け、「誰のため」「何のため」の学校かを常に意識して、チームの一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切に学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともに魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活</p> <p>&lt;保護者&gt; ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上・進路実現</p> <p>&lt;中学校&gt; ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現</p> <p>&lt;地域社会&gt; ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現</p> <p>&lt;中学校&gt; 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供、開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;保護者&gt; 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言</p> <p>&lt;中学校&gt; 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域の子どもたちが本校への入学を希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>○生徒たちが熱心に頑張っている様子が新聞や地域情報誌、ケーブルテレビ等で紹介されていることは大変喜ばしい。</p> <p>○「美容」の取組は、昨年度「高校生美容室」開設、今年度は伊賀市とのシャンプー・トリートメントの共同開発と続き、今後にも期待している。</p> <p>○「黒豆」の活動を地域の人たちと一緒にしたり、「地域開放パソコン教室」で生徒たちが地域の人たちに教えたりしてくれているのは大変ありがたい。</p> <p>○地域の方々と様々な交流をしてもらっている。より多くの生徒が地域交流でいろいろな体験がさらにできるよう願っている。</p> <p>○学校の評判は一人ひとりの先生の姿を通して広がっていく。1学年2クラスを3クラス展開して一人ひとりの生徒に親身に指導いただいているが、ぜひ今後も続けていただきたい。</p>				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="248 488 363 972"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="363 488 1514 972"> <p>○目標を持ち学習意欲のある生徒の他、中学校までの学習段階でつまづき基礎学力が十分に定着していない生徒、家庭環境の厳しい状況にある生徒、特別な支援や配慮が必要な生徒、外国とつながりがあり日本語を苦手とする生徒、規範意識の低い生徒など様々な課題を抱える生徒も見られ、生徒の実態は多様である。</p> <p>○頭髪服装等生徒の「そとみ」の指導を共通の目標に全教職員で取り組み成果をあげている。生徒の様子にも落ち着きが見られ、多くの生徒が授業・部活動等に熱心に取り組み、全校集会での整列・聞く態度にも大きな改善が見られるようになってきている。</p> <p>○全体的に授業に取り組む姿勢や規範意識は向上しつつある。基礎学力やコミュニケーション能力等に課題を抱える生徒も見られるが、進学や就職について真剣に考え学習意欲のある生徒が増えてきている。</p> <p>○卒業生の早期離職や進学後の中途退学を防止し生涯を生き抜くための基礎学力、体力、コミュニケーション能力等の定着・向上が課題である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 972 363 1281"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="363 972 1514 1281"> <p>○教職員の本校での勤務年数が比較的短い傾向が見られることもあり、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点による取組も大切である。</p> <p>○本校に対する地域のニーズをより確かに把握し、それらを考慮した取り組みと体制作りが必要である。</p> <p>○様々な課題を持つ多様な生徒に対して、保護者・地域・関係機関等と連携を図り、丁寧な教科指導・生徒指導を行っている一方で、勤務時間終了後も遅くまで学校に残り仕事に追われる教職員もいる。教職員が心身ともに健康で、やりがいを持って職務を遂行できる職場環境を構築する必要がある。</p> </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<p>○目標を持ち学習意欲のある生徒の他、中学校までの学習段階でつまづき基礎学力が十分に定着していない生徒、家庭環境の厳しい状況にある生徒、特別な支援や配慮が必要な生徒、外国とつながりがあり日本語を苦手とする生徒、規範意識の低い生徒など様々な課題を抱える生徒も見られ、生徒の実態は多様である。</p> <p>○頭髪服装等生徒の「そとみ」の指導を共通の目標に全教職員で取り組み成果をあげている。生徒の様子にも落ち着きが見られ、多くの生徒が授業・部活動等に熱心に取り組み、全校集会での整列・聞く態度にも大きな改善が見られるようになってきている。</p> <p>○全体的に授業に取り組む姿勢や規範意識は向上しつつある。基礎学力やコミュニケーション能力等に課題を抱える生徒も見られるが、進学や就職について真剣に考え学習意欲のある生徒が増えてきている。</p> <p>○卒業生の早期離職や進学後の中途退学を防止し生涯を生き抜くための基礎学力、体力、コミュニケーション能力等の定着・向上が課題である。</p>	<p>学校運営等</p>	<p>○教職員の本校での勤務年数が比較的短い傾向が見られることもあり、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点による取組も大切である。</p> <p>○本校に対する地域のニーズをより確かに把握し、それらを考慮した取り組みと体制作りが必要である。</p> <p>○様々な課題を持つ多様な生徒に対して、保護者・地域・関係機関等と連携を図り、丁寧な教科指導・生徒指導を行っている一方で、勤務時間終了後も遅くまで学校に残り仕事に追われる教職員もいる。教職員が心身ともに健康で、やりがいを持って職務を遂行できる職場環境を構築する必要がある。</p>
<p>教育活動</p>	<p>○目標を持ち学習意欲のある生徒の他、中学校までの学習段階でつまづき基礎学力が十分に定着していない生徒、家庭環境の厳しい状況にある生徒、特別な支援や配慮が必要な生徒、外国とつながりがあり日本語を苦手とする生徒、規範意識の低い生徒など様々な課題を抱える生徒も見られ、生徒の実態は多様である。</p> <p>○頭髪服装等生徒の「そとみ」の指導を共通の目標に全教職員で取り組み成果をあげている。生徒の様子にも落ち着きが見られ、多くの生徒が授業・部活動等に熱心に取り組み、全校集会での整列・聞く態度にも大きな改善が見られるようになってきている。</p> <p>○全体的に授業に取り組む姿勢や規範意識は向上しつつある。基礎学力やコミュニケーション能力等に課題を抱える生徒も見られるが、進学や就職について真剣に考え学習意欲のある生徒が増えてきている。</p> <p>○卒業生の早期離職や進学後の中途退学を防止し生涯を生き抜くための基礎学力、体力、コミュニケーション能力等の定着・向上が課題である。</p>				
<p>学校運営等</p>	<p>○教職員の本校での勤務年数が比較的短い傾向が見られることもあり、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点による取組も大切である。</p> <p>○本校に対する地域のニーズをより確かに把握し、それらを考慮した取り組みと体制作りが必要である。</p> <p>○様々な課題を持つ多様な生徒に対して、保護者・地域・関係機関等と連携を図り、丁寧な教科指導・生徒指導を行っている一方で、勤務時間終了後も遅くまで学校に残り仕事に追われる教職員もいる。教職員が心身ともに健康で、やりがいを持って職務を遂行できる職場環境を構築する必要がある。</p>				

### 3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>○生徒に基本的な生活習慣の確立や部活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。</p>
<p>学校運営等</p>	<p>○情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。</p> <p>○学校行事・会議・部活動等の精選・見直しも含め総勤務時間の縮減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。</p>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力・コミュニケーション能力・体力の向上	<p>(1) 生徒の実態に即した学習指導を工夫し、基礎学力を定着させる。</p> <p>【活動指標】 授業公開及びテスト前補習を各2回以上実施する。</p> <p>【成果指標】 レッドカードの件数が昨年度より減少する。</p>	<p>①授業公開 2回実施 授業参観者数 26名 参観シート提出 23名(28枚)</p> <p>②テスト前補習 3回実施</p> <p>③前期末レッドカードの件数 1年 0名(0枚) 2年 1名(1枚) 3年 1名(1枚)</p> <p>後期末レッドカードの件数 1年 4名(6枚) 2年 11名(21枚) 3年 1名(4枚)</p> <p>【3月14日現在】</p> <p>* H27年度 前期末レッドカード 1年 2名(2枚) 2年 0名(0枚) 3年 1名(1枚)</p> <p>* H27年度 後期末レッドカード 1年 2名(2枚) 2年 13名(20枚) 3年 2名(2枚)</p>	
生徒指導の充実	<p>(1)「そとみ」の指導に取り組む。</p> <p>【活動指標】 頭髪服装指導を行い、規律に則った学校生活を励行させる。</p> <p>【成果指標】 違反総数を昨年度比-15%とする。</p>	<p>・毎朝の登校指導 ・学年ごとの頭髪服装指導</p> <p>違反件数: 434件(昨年度388件)</p> <p>【3月14日現在】</p> <p>→ 昨年度比11.8%増</p> <p>〈内訳〉 1年 67件(昨年度72件) 2年 224件(昨年度136件) 3年 143件(昨年度180件)</p>	
部活動・資格取得の推奨	<p>(1) 生徒自身が学ぶ姿勢を身につけ、積極的に資格取得に挑戦するよう働きかける。</p> <p>【活動指標】 SHR、LHR、進路行事等を通して、</p>	<p>受験者数 合格者数</p> <p>1年 101名 93名 2年 53名 38名 3年 16名 14名</p> <p>検定の受験者数と合格者数について</p>	

	<p>資格取得についての案内やガイダンスを各教科と連携して行う。</p> <p>【成果指標】 資格取得試験、検定等の受験者が昨年度を上回る。</p>	<p>て、増減は選択科目の履修人数に比例しているようである。</p> <p>今後とも担任、教科の教員が主となって資格取得を推奨していく。</p>
キャリア教育の充実	<p>(1) すべての生徒が進路を決定して卒業することを旨とする。</p> <p>【活動指標】 生徒の希望を把握して、就職または進学に向けて指導する。</p> <p>【成果指標】 すべての生徒が進路を決定して卒業する。</p>	<p>学校紹介を希望する生徒の就職内定率100%を本年度も達成した。</p> <p>&lt;卒業生71名の進路&gt;</p> <p>就職内定59名 進学内定10名 進学準備(一般試験)1名 縁故による就職希望者1名</p>

### 改善課題

- 授業公開を2回実施。校外から一定数の参観者を得て参観シートの提出率も高いが、校内教員による相互参観が、多忙さからか今一步の状況である。学習指導、評価方法の工夫や補習の実施につながる「余裕」を生み出せるよう、誰もが仕事をしやすい環境づくりに引き続き取り組んでいく。
- 生徒指導上の違反を繰り返す生徒に対し、丁寧で根気強い指導を継続する。その際、担任や学年団に委ねることなく全職員で指導する。普段からの頭髪服装に関する注意喚起が大切。
- 資格取得については受験者数の増加が見られるものの受験が低い級に留まる傾向がある。一度の合格で満足させずさらに上級合格へと導きたい。各種検定試験は授業との関連性が強いので、授業担当者から受験を働きかける。担任も進路指導の観点も踏まえ資格取得の有効性を生徒に繰り返し説く。また部活動についても心身の発達や人間的成長の他、進路面での優位性などが期待できることなどを、入学当初から生徒に繰り返し説明して積極的な入部・部活動を働きかける。

### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。  
(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。  
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信・学校活性化・地域貢献	<p>(1) 人権だよりを発行し、人権に関する話題や情報を提供するとともに、学校での生徒の様子や学習内容等を伝え、家庭での話し合いのきっかけを作る。</p> <p>【活動指標】 生徒及び保護者を対象として人権だよりを発行する。</p> <p>【成果指標】 生徒アンケートの人権に関する数値が昨年度を上回る。</p> <p>(2) 地域への情報発信を効果的に行い、</p>	<p>(1) 年末までに13号まで発行。 アンケート結果からは「充実感を持つ人権LHRへの期待」の数値向上が見られた。</p> <p>(2) 新聞各社の報道回数は1月末時</p>	

	<p>交流を進める中で教育活動の活性化を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b> 学校の活性化や地域貢献につながるよう、報道機関等への情報提供をねらいを絞り、効果的に行う。</p> <p><b>【成果指標】</b> 地域アンケート（学校評価）で本校の教育活動の理解度が昨年度を上回る</p>	<p>点で延べ74回。地域交流としては、「伊賀上野忍者フェスタ」「黒豆特産品化推進事業」「ナイトライブラリー」「献血啓発活動」「地域コンサート」「地域イベントポスター制作」「伊賀市行政情報番組の高校生スタッフ」「菜の花プロジェクト」「地元農林業公社の創業祭」「斎王群行」「パン作り交流」「地域開放陶芸教室」「高校生美容室」等に生徒が参加・協力した。地域アンケート結果では学校経営数値の平均が、平成26年度から56点→73点→77点へと向上してきている。</p>	
<p>チームワークの向上・意欲の増進</p>	<p>(1) 教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進する。</p> <p><b>【活動指標】</b> 定時退校日を月1回以上設ける。年休取得を奨励する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 定時退校日の達成率90%以上を目指す。全教職員の年休取得日数10日以上を目指す。</p> <p>(2) 勤務時間の縮減に加えて、若い教職員が意見を言い、活躍できる機会を提供する。</p> <p><b>【活動指標】</b> 学校マネジメント委員会から学校改善活動の提案を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b> 教職員の満足度調査（仕事のやりがい）が昨年度を上回る。</p>	<p>(1) 定時退校日の平均達成率は毎回ほぼ9割以上。また、年休取得平均日数も目標を達成した。</p> <p>(2) 学校マネジメント委員会は若手教員によるメンバー構成で、①目指す学校像・重点目標の職員室掲示、②生徒の机・椅子へのテニスボール設置（消音効果）、③職員清掃デー実施などに取り組んだ。 職員満足度調査結果については「仕事のやりがい」が前年度61.8点に対し本年度57.4点とやや低下する一方、「学校経営への参画」は同65.1点が70.8点へと上昇している。</p>	

改善課題

- 情報発信については新聞やケーブルテレビで報道されることが多いが、ポスターやチラシの定期的配布など、中学生や保護者に対する、より直接的な情報提供も必要である。
- 地域との連携や地域行事などへの参加を通じた学習活動は、生徒の達成感や自己肯定感の向上などが期待できる。今後も引き続き取り組み、地域連携・地域貢献につなげたい。
- 教職員が心身ともに健康で、意欲を持って生徒の指導に日々取り組めるよう、ワークライフバランスに留意し過重労働防止やさらなるチームワーク向上を図っていく。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成果発表会は大変良かった。もっと地域の方が参加できるような工夫があればさらに良い。</li> <li>○平成 29 年度入学生から着用することになった新制服は大変良い出来栄だ。</li> <li>○日頃からのあけぼの学園高校、教職員の取り組みを評価している。生徒の通学する姿は以前とは比較にならないくらい良くなっている。引き続き頑張ってもらいたい。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の基礎学力定着・向上に向けた授業改善や方策等について引き続き検討する。</li> <li>○基本的な生活習慣の改善に向け、欠席や遅刻防止に取り組む。</li> <li>○資格取得に取り組む学習や努力する過程は、生徒に「自信と誇り」を育む効果が期待できる。クラブ活動も含め、入学当初から積極的に奨励して生徒の学校生活充実や希望進路実現につながるような働きかけとなるよう工夫する。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小規模の学校であり目指す学校像の実現に向け教職員が一致協力して取り組んできたチームワーク、「チームあけぼの」としてフォローし合う学校体制は今後も大切。さらなるチームワークや意欲の向上に必要な手立てを検討し実行する。</li> <li>○学校マネジメント委員会をはじめ若手教員が活躍できる機会の確保。</li> <li>○定時退校日の設定。年休取得の目標設定および奨励など、教職員が心身ともに健康で意欲的に生徒の指導に取り組めるような手立てを検討し実行する。</li> <li>○29 年度入試では久しぶりに定員割れとなった。学校としての魅力の向上、そしてその魅力が中学生・保護者に伝わるような情報発信を行う。</li> </ul>